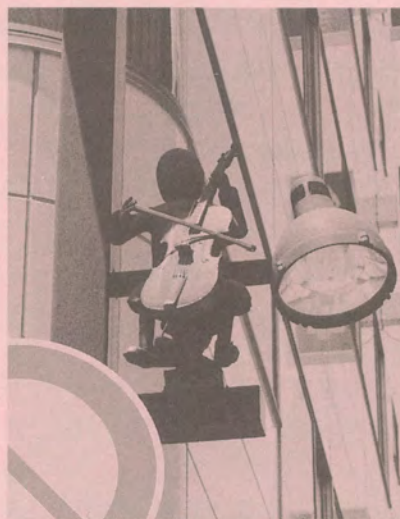
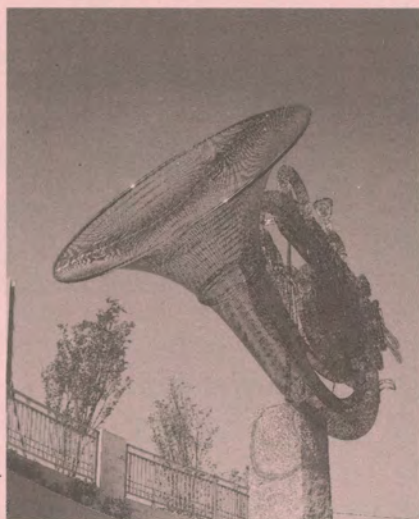




楽器のある風景 ～アートと楽器～



「浜松＝楽器」・・・こんなイメージをお持ちの方は、どれくらいいらっしゃるでしょうか。浜松では、古くから（といっても明治以降のお話ですが）洋楽器産業が盛んでした。現在は、生産の拠点となる工場の多くが郊外や周辺地域へ移転しておりますが、本社等その中枢は未だ健在で、国内生産の大部分を担っています。

さて、このような背景を持つ浜松市では、「音楽のまちづくり」を施策に掲げ様々な取り組みがなされております。また、その中心部では、楽器に関する様々なアートを目にすることができます。それらの中からいくつかをご紹介します。

まずは、JR浜松駅の東側。バスターミナルから地下道をぬけてアクトシティへ歩いていくと、まず最初に目に飛び込んでくるのが、ホルンをかたどった作品（写真左）です。「風の中で」というタイトル、西野康造氏の作品です。この他にも、アクトシティの中では楽器や音楽をモチーフとする作品をたくさん見ることができます。

次に西側。何気なく空を見上げたら、街灯の脇にチェロを弾く人のかたどった作品（写真中央）を見つけました。きょろきょろと周りを見回してみましたが、残念ながらこの作品しか見つけることができませんでした。タイトルや作者も不明です。

さらに南側。歩道に、楽器の絵柄のタイルが等間隔にはめ込まれています。モデルとなった楽器は、当館所蔵のものです。駅西側のモール街でも、柄は異なるものの、楽器をモチーフとするタイルを見ることができます。

最後に北側。ちょうど遠州鉄道の高架下に全部で4体からなる作品（写真右）があります。天使がそれぞれ異なる楽器を持っていて、作品の台座には解説が書かれています。それによると、作品はそれぞれ「レ」「ミ」「ファ」「ソ」の由来となる神々をモチーフとしており、写真の作品は「ファ」の神「ファーター」。

これらのモチーフになった楽器は、なぜかヨーロッパのものばかり。洋楽器産業が盛んな土地柄という理由なのでしょう。（I.N）

事業報告

■レクチャーコンサート「スーホの白い馬 ～草原の風・モンゴルの馬頭琴～」

12/13 (土) 14:00～16:00 研修交流センター 21 音楽セミナー室

出演：リポーさん (中国内モンゴル自治区), 山元哉司子さん (内モンゴル音楽家協会名誉理事)

名手リポーさんの演奏をたっぷりと楽しみました。リポーさんは1年の半分が日本の生活とあって、流暢な日本語で色々と説明されました。馬頭琴の弦は元来は馬の尻尾の毛を使うのですが、現在は大音量を出すために日本製釣用テグスを使うとのこと。意外なところで日本・モンゴルの交流があるのに驚きました。会場には小学生も大勢つめかけ、山元さんのモンゴルの暮らしのお話や「スーホの白い馬」の朗読に聞き入っていました。

■レクチャーコンサート「さわやかな中世とルネサンス～イタリア・フランス・スペインの歌と楽器～」

2/21 (土) 14:00～16:00 研修交流センター 21 音楽セミナー室

出演：岡本一郎さん (同志社女子大学), ダンスリー・ルネサンス合奏団

前半は、「聖母マリア頌歌」などスペイン, イタリア, フランス, イギリスの中世の曲, 後半は「ブルターニュ地方の5つのブランル」やクレマン・ジャンカンのシャンソン「愛ってなんだろう」などフランスのルネサンスの曲という構成。リコーダーやゲムスホルン, リュート, レベック, ヴィオラ・ダ・ガンバなどの古楽器の合奏に、ソプラノの声とフランス語の詩の朗読が加わり、清らかでしっとり、時々お茶目な音楽世界を楽しみました。



■小展示「ヨーロッパの中世とルネサンス」1/29 (木)～3/1 (日) 楽器博物館第3展示室前室

中世, ルネサンス時代の様々な楽器と, リュートが生まれたいきさつについて, 実物資料や絵画などで紹介しました。

■平成9年度新着資料展 1/29 (木)～2/22 (日) 楽器博物館第3展示室

本年度に寄贈された楽器 21 点と新たに購入したモンゴルやパプアニューギニアの楽器 31 点を紹介しました。

本年度, 楽器を寄贈して下さった方々

楽器名	氏名	楽器名	氏名
リード・オルガン (昭和3-14年)	加古ふみ (浜松市)	アブライビア (昭和10年頃)他1点	飯田昌由 (湖西市)
アコーディオン (昭和11年)	鈴木積平 (浜松市)	横笛 (中国) 他4点	松本吉治 (浜松市)
シタール (インド) 他2点	藤田明 (浜松市)	リード・オルガン (昭和30年頃)	石原真 (静岡市)
尺八 (昭和2年)	横山滋子 (清水市)	東流二絃琴	藤舎蘆船 (東京都台東区)
リード・オルガン (昭和32年)	黒田よしの (浜松市)	クンドゥ (パプアニューギニア)	鈴木伸幸 (浜松市)
アコーディオン (昭和10年頃)	大村道子 (富士市)	浄瑠璃小道具一式	宮本長左工門 (浜松市)
横笛 (ケニヤ)	ワキヤ (ケニヤ)	鼻笛	石橋忠信 (清水市)

この他, 多数の方から関連資料をご寄贈いただきました。誠にありがとうございました。

■セミナー 楽器の中の聖と俗

「日本の民俗楽器—チンドン」 講師：西岡信雄さん

12/6 (土) 14:00～16:00 研修交流センター 401 会議室 参加者 28 名

日本独特の民俗楽器「チンドン」の使用状況と, チンドン業界の現状を報告しました。また, この業界が各方面より, どのようなアイデアを取り入れてきたかを歴史的に考察しました。

■調査中間報告「浜松楽器風土記」講師：小木香 (当館主任学芸員)

1/24 (土) 14:00～16:00 研修交流センター 401 会議室 参加者 17 名

鈴の使用場面や鈴の音の言語表現を通して, 日本人と鈴との関わりについて考えてみました。

■講座 シリーズくらしと楽器

「中世・ルネサンス音楽を聴く楽しみ」 講師：美山良夫さん (慶応大学教授)

2/7 (土) 14:00～16:00 研修交流センター 401 会議室 参加者 57 名

中世ヨーロッパのキリスト教音楽を紹介し, 宗派による違いやマリア信仰など, その音楽が生まれた背景について考えました。また, 中世スペインの楽器の細密画より, 当時の楽器がどのように使われていたのかを考えてみました。

フィールドワーク旅行記Ⅲ

モンゴルといえば果てしなく広がる大草原を思い浮かべるでしょう。しかしそこには我々の知らない未知世界も果てしなく広がっています。今回はモンゴル遊牧民の生活を紹介します。

- ・主に牛、馬、羊、ヤギ、ラクダを放牧。中でも主食となる羊が全体の60%を占め、一家族で500-1000頭の家畜を飼育。
- ・朝食（スーティという馬乳茶）の後、男性は1日中家畜を追って放牧に行き、女性は乳搾りや家事を担当。
- ・採取した乳は保存のきくようにすぐに馬乳酒やチーズなどの乳製品に加工。チーズの種類は非常に豊富。
- ・食用となる羊は一滴の血も流さず解体され、大鍋でゆで、ナイフで削りながら食べる。
- ・胃や腸は他の内臓や血を詰めてゆでる。また膀胱には細かく碎けば牛一頭分の干し肉を詰めることができ保存食にする。
- ・大腿骨などはナイフで叩き割り、ゼリー状の骨髓を吸う。
- ・基本的に冬は肉食、夏は馬乳酒などの乳製品を常食し、1年で栄養のバランスをとっている。
- ・かつては肉食が大半であったが近年穀類も増え、グリルタイホール（肉うどん）、ポーズ（巾着状の肉の包蒸し）、ホーショール（肉餃子）のような中華風食物も増えた。
- ・草原ではゲルというドーム状に組んだ木枠にフェルトをかぶせた円形テントに住む。ちなみに別名のバオは中国での呼称。
- ・ゲルは分解・組立が容易で3、4人で1時間程でできてしまう。
- ・ゲルは入口が必ず南向きで、中心には暖房や調理に使うストーブがおかれる。
- ・ゲルの中は入口右側（東側）は女性や子供の場で、左側（西側）は男性や客人の場。
- ・屋根の中心にはトーノという天窓があり、これで明かりを調節。暖をとる時や調理の時はトーノから煙突を出す。
- ・燃料は家畜の糞を使用。家畜の種類によって火力が異なる。最も強力なのは牛の糞。
- ・極寒となる冬（-40度にもなる）は床下に羊の糞を敷き詰め、その上にカーペットを敷く。
- ・真冬は動物も暖かいものを欲する。人間が戸外で小便をすれば、それを求めて動物が集まり飲んでいく。（T. S）



昼食のためにヤギを解体する人々

収蔵資料の紹介

■リコーダー

リコーダーという呼び方は、今から500年くらい前に初めて文献に登場します。その後今から300～250年くらい前、バッハやヘンデルといった作曲家が活躍していた時代（18世紀頃；バロック時代と呼ばれます）に今の形になり、最も流行しました。

ところで、このリコーダーという楽器は、他のヨーロッパの木管楽器（フルートやオーボエなど）にくらべてかなり素朴なつくりになっています。もともとバロック時代のフルートやオーボエなどは、リコーダーと同じ材料を使い、形もリコーダーのように素朴なものでした。また、現在ではフルート奏者、オーボエ奏者といった具合に、専門の演奏家がそれぞれの楽器を演奏するのが当たり前となっていますが、バロック時代には木管楽器の演奏家は、フルート、オーボエ、リコーダー全てを演奏するのが常識でした。つまり、フルート、オーボエとリコーダーとはこの時代全く同等の地位にあったわけですが、ヨーロッパの社会状況の変化に伴う音楽状況の変化により、それぞれ違う道をたどることになります。フルートやオーボエは、より大きな音で上の音から下の音までバランスよく鳴るようにするなど、多くの製作家によって工夫がほどこされ、一方リコーダーは、フルートやオーボエなどに比べ、音量や音の強弱などを利用した表現力に改良の余地なしと当時の人々に判断され、急速に忘れられていきました。

こうして、一時は世の中から姿を消してしまったに等しいリコーダーでしたが、19世紀に復興が始まり、現在では多くの製作家によってリコーダーが最も活躍した18世紀のオリジナルが研究され、この時代の音楽状況の忠実な再現化が試みられています。

浜松市楽器博物館では、18世紀初頭のフランスで、木管楽器の一流の演奏家であり、また製作家としても第一人者として認められていたニコラ・オートテール三世が製作したと思われるアルト・リコーダー（写真）の他、やはり18世紀に現ドイツで代表的な製作家として知られた、ヨハン・クリストフ・デンナー、オーバーレンダー製作のアルト・リコーダー、ヨハン・クリストフ・デンナーの息子ヤコブ・デンナー製作のテナー・リコーダーが地下1階ヨーロッパ展示室に展示されています。（M.M）



平成 10 年度事業スケジュール

事業名	日時	内容	
特別展「シンボルとしての楽器 一聖なる形、祈りの音」	3.24(火)～5.10(日)	楽器とその音が持つ‘象徴性’にスポットをあてます。	
特別展講演会「神々の音像」	4.25(土)	講師：櫻井哲男（熊本大学教授）	
特別展「遊牧民の楽器」	11.3.27(土)～5.9(日)	モンゴルを中心とした遊牧民の音楽や楽器を紹介します。	
企画展「歌舞伎の音楽と楽器」	9.29(火)～10.25(日)	歌舞伎に使われる楽器を、舞台裏の様子も織りまぜて紹介します。	
特別展講演会「江戸時代の芝居小屋（予定）」	10.24(土)	講師：目代清（日本大学教授）	
企画展「楽器の科学」	7.22(水)～8.30(日)	楽器の音の出る仕組みなど、楽器の構造について紹介します。	
新着資料展	1.26(火)～2.21(日)	平成 10 年度に寄贈、購入した資料を紹介します。	
見学会	6月	楽器製作現場を訪問します。	
海外フィールドワーク速報展	2.16(火)～3.22(月)	海外フィールドワークで収集した資料を紹介します。	
浜松楽器風土記	1.30(土)	浜松市内の芸能についての調査報告会です。	
三遠南信地域芸能調査報告会	2.27(土)	三遠南信地域の芸能についての調査報告会です。	
音楽体験教室（夏休みワークショップ）	7.22(水)～7.31(金)	子供向けの楽器工作教室です。	
世界の楽器の レクチャー コンサート	東流二絃琴（あずまりゆうにげんきん）	5.31(日)	出演：藤舎蘆船（東流二絃琴家元） 他
	ハーブシコード	7.11(土)	出演：中野振一郎（ハーブシコード奏者）
	ジャワ・ガムラン	10.3(土)	出演：風間純子（大東文化大学講師） 他
	フォルテピアノ	12.6(日)	出演：小島芳子（フォルテピアノ奏者）
	ピアノ・デュオ	1.23(土)	出演：野村真理（東京芸術大学講師） 他
世界の 音楽 講座	「自らの歌を持つヴェッダ族 一大地と人々と音楽」	5.23(土)	講師：藤井知昭（国立民族学博物館名誉教授）
	「吉兆の響き 一南インドのヒンドゥー儀礼音楽」	6.13(土)	講師：寺田吉孝（国立民族学博物館助手）
	「バプアニューギニアの精霊のうた」	7.4(土)	講師：山田陽一（広島大学助教授）
	「江戸時代の伊勢漂民・大黒屋光太夫の見たピアノ」	9.5(土)	講師：笠原潔（放送大学教授）
	「西ジャワの音楽 一ガムランからポップまで」	10.18(日)	講師：福岡正太（国立民族学博物館助手）
	「トルコの歌と踊り」	11.14(土)	講師：小柴はるみ（東海大学教授）
	「西洋音楽文化と楽器テクノロジー」	3.14(日)	講師：渡辺裕（東京大学助教授）
「楽器の中の聖と俗」（全3回）	9.26(土),12.19(土),1.16(土)	講師：西岡信雄（大阪音楽大学教授）	

世界の楽器のレクチャーコンサート、世界の音楽講座、音楽体験教室は「浜松市アクトシティ音楽院」に協力して行われる事業です。

12～2月の観覧者数

大人	個人	8,285	小人	個人	1,025
	団体	869		団体	534
中人	個人	160	幼児		557
	団体	0	合計		11,430

利用案内

開館時間：火曜日～日曜日 午前9：30～午後5：00

休館日：月曜日（祝日にあたる時は開館）、祝日の翌日、年末年始、その他資料整備等のために定める日

一祝日前後の開館日については、変更することがございますので当館にご確認下さい。一

観覧料： 個人 団体（20人以上） 団体（80人以上）
 大人（大学生以上） 400円 320円 240円
 中人（高校生） 200円 160円 120円
 小人（小・中学生） 100円 80円 60円

※特別展期間中は、別途特別展観覧料が必要となります。

※館内には、貴重品以外のお荷物は持ち込みできません。

浜松市楽器博物館だより

1998年3月31日発行

No.11

編集 浜松市楽器博物館

〒430-7790 静岡県浜松市板屋町108-1

TEL 053-451-1128

FAX 053-451-1129

印刷 株式会社 シバプリント